

開催日時

2008年9月29日(月)  
午後1時～午後6時35分



会場

東京大学 武田ホール

東京都文京区弥生2-11-16 武田先端知ビル5F

定員 先着340名(参加費無料・日英同時通訳あり)

# 農地土壌に関する 国際シンポジウム

～農地土壌が地球を救う～

農地土壌の地球温暖化ガスの吸収源としての役割・意義、そして地球温暖化を防ぐために、我が国が果たすべき役割を考えます。



主催 (財)日本土壌協会  
学習院女子大学荘林研究室  
後援 農林水産省  
(独)農業環境技術研究所  
農林漁業金融公庫  
国際協力銀行(JBIC)  
国際協力機構(JICA)

# 農地土壌に関する国際シンポジウム

## セッション1: 農地土壌の機能解明のフロンティア

セッションコーディネーター: 小崎 隆 首都大学東京 都市環境科学研究科 教授

- 地球温暖化ガスの吸収機能等農地土壌の多様な機能 / 松本 聡 (財)日本土壌協会 会長(東京大学名誉教授)  
- 農地土壌の多様な機能、適切な管理を通じた土壌保全の必要性等について説明します。
- 日本における農地土壌への炭素蓄積の可能性 / 白戸 康人 (独)農業環境技術研究所 主任研究員  
- 日本における農地への有機質資材投入などの土壌管理による土壌炭素蓄積の実態と予測について説明します。
- カナダにおける農地土壌による地球温暖化ガス吸収機能の評価・分析  
/ Brian G. McConkey カナダ農務農産食品省 研究員  
- 現在、農地土壌を吸収源として選択している4カ国のうちの1つであるカナダにおいて、農地土壌を地球温暖化ガスの吸収源としてどのように評価・分析しているかについて説明します。

## セッション2: 農地土壌による温室効果ガス吸収機能の促進と持続的農業: 政策と市場の役割

セッションコーディネーター: 渡部 靖夫 農林水産省農林水産政策研究所 次長

- 農地における二酸化炭素削減: その可能性と政策 / Mark Rosegrant 国際食料政策研究所 環境・生産技術研究部長  
- 農地土壌による二酸化炭素吸収の促進が、温暖化緩和だけでなく、途上国をはじめとした世界農業の持続的発展や貧困削減に資する可能性について説明します。
- 農業における炭素吸収の集約: 市場的枠組みにおける取り組み  
/ William Schleizer 米国デルタインスティテュート アソシエートディレクター  
- 農地土壌による二酸化炭素吸収機能をオフセットプロジェクトとして取り入れている唯一の排出権市場であるシカゴ気候取引所における農地土壌によるクレジットの取引等について説明します。
- 途上国における土壌による炭素吸収の実用化: ケニアの事例  
/ Rama Chandra Reddy 世界銀行カーボンファイナンスユニット 上級カーボンファイナンス専門家  
- 途上国の土壌による炭素吸収のための農村コミュニティによるさまざまな取り組みを議論するとともに、排出権市場における規制の枠組み及びこれらの取り組みを実施する際の課題を示します。

## 特別講演

- 排出権-革新的金融支援ツール / 本郷 尚 国際協力銀行 環境ビジネス支援室長  
- 排出権の金融面からの役割とカーボンフットプリントを含む排出権市場の動向、課題、見通しを説明します。

## パネルディスカッション

- <コーディネーター> 荘林 幹太郎 学習院女子大学教授
- <パネリスト> セッションコーディネーター、講演者及び農林水産省



(日時) 2008年9月29日(月)

(場所) 東京大学武田ホール

東京メトロ千代田線: 根津駅1番出口より徒歩5分  
東京メトロ南北線: 東大前駅1番出口より徒歩10分  
東京メトロ丸の内線: 本郷三丁目駅1番出口より徒歩15分  
都営大江戸線: 本郷三丁目駅4番出口より徒歩15分

(定員) 先着340名 (事前申し込みが必要です。)

(参加費) 無料 (通訳) 日英同時通訳あり

(申込方法)

下記の申込先に、氏名、所属及び連絡先(FAX又はE-MAILアドレス、電話番号)を記入のうえ、FAX又はE-MAILにて下記まで申込みください(電話不可)。応募多数の場合は先着順となります。参加の可否について、後日、連絡いたします。

(申込先・お問い合わせ先)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-58  
(財)日本土壌協会 FAX 03-3219-1646  
E-MAIL mail@japan-soil.net  
(TEL 03-3292-7281)

